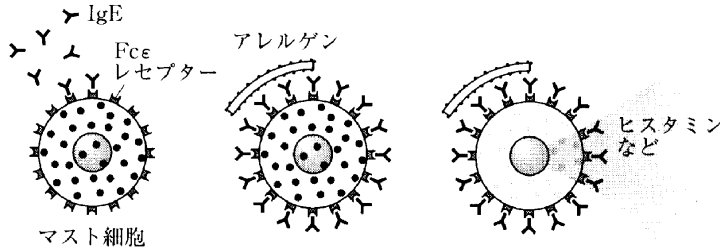


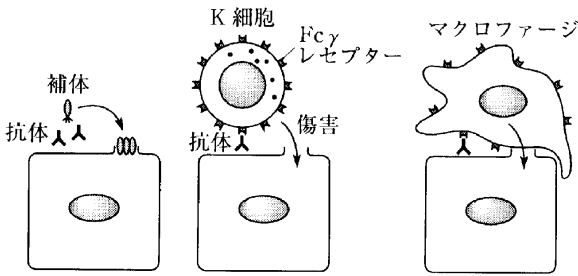
性が示されている。他に種々の非特異的免疫療法(変調療法)がある。

アレルギー反応 [allergic reaction] 本来生体防御を目的とするはずの免疫応答が結果としてむしろ生体に危害を及ぼすものであった場合、その免疫応答をアレルギー反応という(⇒アレルギー)。免疫応答が基本となっているから特定の抗原に対応する抗体ないしT細胞が存在することが前提となる。最初の抗原の侵入に際しその抗原に対し免疫応答が生じ、抗体がつくられ、対応T細胞が増加するという準備状態ができる。これを抗原感作という。感作された個体に再び同じ抗原が侵入してきたとき抗体ないしT細胞とその抗原との反応が生じ、時としてその反応が生体に危害をもたらすのである。アレルギー反応が生じたとき、それにかかわった抗原を特にアレルゲン*という。感作の機会がなかった個体、機会が

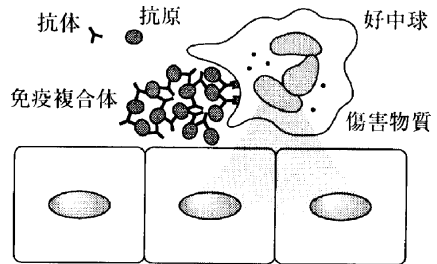
あってもアレルギー反応を起こすような抗体やT細胞がつくられなかった個体では、抗原が侵入してきても何も起きないが、感作されている個体では激しい反応が生じる。特定の個体で異常に強い反応が生じるという意味で過敏症*という言葉も使われる。本来微生物などの予防(prophylaxis)にはたらくべき免疫反応がそれとははずれた(ana-)異常な反応を起こすことからアナフィラキシー*(anaphylaxis)なる言葉も生まれた。アレルギー反応はどのような機序で生体に危害を与えるかによってR. R. A. Coombs と P. G. Gellにより四つの型に分けられている。II型の亜型としてV型を加え五つに分類する場合もある。図にI~V型アレルギーの機序を示す。I型はIgE*(一部IgG4)抗体と抗原との反応によりマスト細胞*からヒスタミン*・ロイコトリエン*などが放出されることによるもので、末梢血管拡張によるショッ



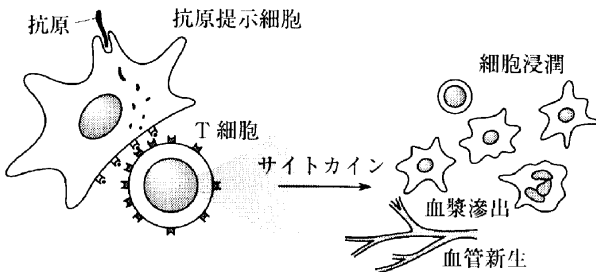
I型アレルギーの機序



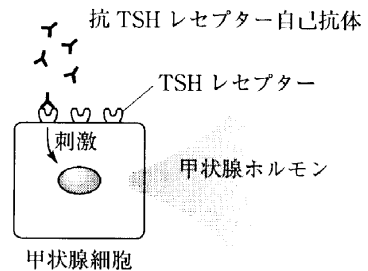
II型アレルギーの機序



III型アレルギーの機序



IV型アレルギーの機序



V型アレルギーの機序

アレルギー反応